



2016・11・11

第 255 号

101-0065 東京都千代田区
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

自衛隊南スーダン派兵の閣議決定許さない

九条の会が記者会見

九条の会は 11 月 10 日、参議院議員会館で記者会見し、安倍内閣が、かけつけ警護や宿营地防衛などの新任務を付与し、自衛隊の南スーダン派兵を閣議決定しようとしていることに反対する声明を發表しました。

記者会見には世話人の池田香代子さん（ドイツ文学翻訳家）と伊藤千尋さん（ジャーナリスト）、小森陽一事務局長ほか事務局メンバーが参加し、声明の趣旨を説明しました。

なお、事務局ではこの声明を基礎に、九条の会として自衛隊の南スーダン派兵に反対する各界の一声メッセージ運動に取り組むことにしています。

声明 南スーダン・PKO への

自衛隊派兵に反対します

安倍政権は、10 月 25 日の閣議で、自衛隊が南スーダンでの国連平和維持活動（PKO）に従事する期間を来年 3 月まで延長しました。そして、この 11 月から南スーダンへ派兵予定の青森駐屯地の陸上自衛隊第 9 師団第 5 普通科連隊を中心とした部隊に、2015 年 9 月に強行制定された「戦争法」（「安保

九条の会第 6 回全国交流集会の 成果をこれからの運動に =< 報告集 >=

◇主な内容

- ・呼びかけ人あいさつ(澤地久枝)
- ・問題提起(小森陽一)
- ・世話人あいさつ・メッセージ(池内了、池田香代子、伊藤千尋、伊藤真、清水雅彦、山内敏弘、浅倉むつ子、高良鉄美)
- ・分散会の報告(第 1～第 7 分散会)
- ・資料 自民党改憲案、アンケートから見た九条の会の現状と課題、他

◇B5 判 76 頁 1 冊 800 円(〒82)

但し、5 部以上〒無料

10 部以上 1 割引

=< DVD >=

◇主な内容

呼びかけ人あいさつ／事務局長報告
／世話人あいさつ・紹介

◇取り扱い 1 本 1500 円(〒160)

関連法) により「改正」された「PKO 法」に基づいて、他国 PKO 要員などの救出を行

う「駆け付け警護」と、国連施設などを他国軍と共に守る「宿営地の共同防護」の任務を新たに付与しようとしています。

自衛隊の PKO への参加は、武力行使を禁じた憲法 9 条に反するとの反対の声におされて、1992 年に成立した PKO 法には、参加の条件として、①紛争当事者間での停戦合意の成立、②受入国を含む紛争当事者の同意、③中立的立場の厳守、④上記原則が満たされない場合の撤収、⑤武器使用は要員防護のための必要最小限に限るという、「PKO5 原則」がつけられました。

しかし、南スーダンでは大統領派と前副大統領派との対立と衝突はやまず、7 月には両派で大規模な戦闘が発生し、前副大統領は国外に逃れ、PKO 隊員や国連職員が死亡していることは国連も認めているとおりです。そのため国連安保理は今年 8 月、アメリカ主導で、南スーダン政府を含めたいかなる相手に対しても武力行使を認める権限を付与した 4000 人の地域防衛部隊を追加派遣する決議案を採択しました。この決議には、主要な紛争当事者の同意という PKO の原則に反しているという理由で南スーダンの代表自体が当初反対を表明し、ロシアや中国なども棄権しています。

こうした状況は、とても PKO 参加 5 原則を満たしているとはいえません。安倍首相や稲田防衛大臣は、7 月の戦闘を単なる「衝突」だとし、この 10 月に現地を赴いた稲田大臣はたった 7 時間の視察で、「比較的安定している」と報告していますが、首都ジュバ近郊では、大統領派と前副大統領派との間での戦闘が拡大し、多数の死者が出ています。こうしたウソをついてまで南スーダ

ンに自衛隊を派兵するならば、政府軍相手の戦闘や市民を巻き込んだ戦闘の危険すら否定できません。それは自衛隊の海外での武力行使＝海外派兵に本格的に踏み込もうとするものです。

このような違憲、違法かつ危険な「任務」に自衛隊員をさらすことは許されません。九条の会は、自衛隊の南スーダンへの派兵と新任務の付与に断固として反対するとともに、憲法違反の「戦争法」の廃止を強く求めます。

2016 年 11 月 10 日 九条の会

憲法公布 70 周年 各地で催し

【三重県四日市市・九条の会よっかいち】

「九条の会・よっかいち」は 11 月 3 日、四日市市内で名古屋大学名誉教授の森英樹氏を招いて「日本国憲法公布 70 周年の夕べ」を開き、約 100 人が参加しました。

森氏は「憲法公布 70 周年と戦争法『成立』1 年を考える」と題して講演しました。

森氏は、日本の議会政治の黎明期から戦後に至るまで衆院議員を務めた尾崎行雄氏が 1946 年の憲法公布当時に朝日新聞へ寄せた寄稿文の中の、「千年以上も奴隷的教育を受け、今もなお受けつつある国民が、この憲法を、頭を切り換えて迎用するには 3 代くらいはかかると思わねばならぬ」という文を紹介。現在が尾崎氏の言う 3 代の頭に差し掛かっていると述べ、昨年の戦争法廃止の市民運動の高揚の中にその端緒が見え始めたと言及しました。

講演の前には、員弁、桑名、鈴鹿、四日市の近隣の九条の会代表が登壇し、活動を

報告しました。

武力で平和を作れないのは証明済み

【静岡県沼津市・ぬまづ憲法9条の会】

「ぬまづ憲法9条の会」は3日、結成11周年のつどいを行い、120人が参加。五十嵐仁・法政大学名誉教授の講演を聞き、安保法制＝戦争法の廃止、憲法をいかした日本に転換させようと学びあいました。

五十嵐氏は、自民党改憲草案を批判し、「日本国憲法は戦争放棄の9条をはじめ、いかすことこそ必要です。次の世代のために私たちが戦争法廃止、改憲反対を訴える運動を頑張りましょう」と訴えました。

世話人の藤巻謙一氏は「安倍首相は武力による抑止力を言うが、武力で平和がつかれないのは2度の世界大戦で証明されている。力をあわせて戦争しない世の中にさせよう」と呼びかけました。

二胡奏者の鈴木裕子さんが「さとうきび畑」など11曲を演奏し、透き通った音色を響かせました。

参加した女性（66）は「すごく元気がでた。改めて憲法を読み直したいと思った」と話していました。

野党共闘で改憲勢力を少数派に

【富山県・大学人9条の会】 富山県の大学人9条の会は3日、富山市で憲法講演会を開き、90人余が参加しました。

上智大学の中野晃一教授が「改憲の危機にどう立ち向かうか—市民社会と政党政治の展望」と題して講演しました。安倍政権は改憲の発議を狙っており、発議されると最低投票率の規定がないことをはじめ欠陥

が多い国民投票法の下では、改憲を阻止することが難しくなると指摘。発議を阻止するには、野党共闘で国政選挙をたたかって改憲勢力を少数派に追い込むことが必要だと強調しました。

講演を聞いた滝内英二さんは、「違う考えの人と対話する際に、相手を尊重して話を聞くことから信頼関係ができる、という話は大変勉強になった」と話していました。

9条を生かしてテロ克服を

【広島県・広島県9条の会ネットワーク等】 「広島県9条の会ネットワーク」と「ひろしま医療人・九条の会」は3日、広島市中区で憲法のつどいを開き、約210人が参加しました。広島大学で憲法などを専攻する横藤田誠教授が講演しました。

広島県保険医協会の長谷憲理事長は「われわれは憲法9条を生かした理性と知性でテロを克服しなければならない」と開会あいさつをしました。

両足の障害のため中学校まで特別支援学校に通った横勝田氏は「憲法13条の『すべて国民は、個人として尊重される』に衝撃を受けた。それが憲法を専門に研究する私の原点になっている」と語りました。

誰にも戦争体験をさせない社会に

【高知県・こうち九条の会等】 こうち九条の会と女性「九条の会」高知は、沖縄大学の小林武客員教授を招き、憲法の原点を学ぶ県民のつどいを高知市で開きました。満席の280人が参加しました。

こうち九条の会の呼びかけ人代表、青木宏治高知大学名誉教授は「憲法9条の大原

点と沖縄の基地問題の核心を学び、連帯することが改憲阻止につながるという核心をつかもう」と述べました。

小林氏は「立憲主義をないがしろにする安倍政権から憲法を守り、活かしていくことが憲法の発展につながる」と強調。基地建設を強行する安倍政権に対し、意気消沈している県民はいないと語りました。

香美市の女性（76）は「9条を守り、誰にも戦争を経験させない」と話しました。

市民の政治参加で野党共闘を後押し

【鹿児島県・かごしま九条の会】 「かごしま九条の会」は3日、広渡清吾東京大学名誉教授を迎えて鹿児島市内で記念講演会を開き、約130人が参加しました。

広渡氏は安保法制廃止と改憲阻止に向け、「市民と野党の共同をさらに発展させ、衆院選 259 小選挙区で野党共闘を実現し、憲法改正を阻止する3分の1を確保する強力な体制を」と述べ、「安倍政権の反憲法的動きを止め個人の尊厳を擁護する新しい政治に道を開くために、全国各地で市民の政治参加を広め野党を後押ししていくことが必要」と訴えました。

代表幹事の飯田泰雄鹿児島大学名誉教授は開会あいさつで、憲法を守る運動を広げようと訴えました。

戦跡めぐりで平和への思い新たに

【徳島県・九条の会徳島等】 九条の会徳島や平和団体などで作る実行委員会主催の第6回徳島九条まつりが3日、徳島市で開かれました。

戦跡めぐりピースウォークに23人が参加。

徳島大空襲で焼け残った国際東船場 113 ビル、徳島中央公園の焼け残ったイチョウの木、防空壕跡などを見学しました。

吉成務実行委員長は「停戦合意が崩れた南スーダンで自衛隊に『駆け付け警護』任務を与え、核兵器禁止条約交渉開始決議に反対するなど、政府の動向はおかしい。こういうときこそ、平和への思いを強めよう」とあいさつしました。

美馬市の女性（31）は「こんな田舎の都市まで空襲される戦争の怖さを実感しました。9条の果たす役割を改めて考えたい」と語りました。

スタンディングに若者が共感

【福島県・福島県九条の会】 3日、福島県九条の会はJR福島駅前で、参加した6人が、午後1時に「アベ政治許さない」とプラカードを一斉に掲げました。県九条の会では澤地さんが呼びかけてから毎月3日と「9条」にちなみ9日の2回、行動に取り組んでいます。

中学生や高校生約10人の若者のグループはスタンディングを見て「安倍首相が何を考えているかわからない。許せない」と声をあげ共感。グループの一人の中学3年の男子生徒は「戦争は許せない。首相は戦争しないとってたのに、（自衛隊の南スーダンへの派遣は）おかしい」と話しました。

行動に参加した福島市民連合共同代表の那須稔雄さん（68）は「7月の参院選後から通行人の見方が変わり、声をかけてくれる人も増えました。次期衆院選では気持ちのいい野党共闘が組めることが、戦争法廃止を求める野党と市民の勝利にとって重

要です」と話しました。

9条を孫の時代に引き継ぎたい

【札幌市南区・南区九条の会等】 札幌市南区の「戦争法を廃案にする南区民の会」と南区九条の会等は3日、地下鉄真駒内駅前で、「平和憲法世界の宝」「平和を次代につなごう」「アベ政治を許さない」のステッカーをかかげスタンディングを行いました。

参加者は、マイクで地下鉄乗降客に「9条守ろう」、「核兵器廃絶」を訴えました。若者が手を振って通り過ぎる姿が見られました。

戦争で兄が戦死したという高齢の女性は「戦後の平和を守ってきた9条を孫の時代に引き継ぎたいのよ。がんばって」と激励し参加者と握手をしていきました。

「9条学校」で改憲案を劇で告発

【神奈川県・九条の会かながわ】 九条かながわの会は2日夜、横浜市戸塚区内で、「11月9条学校」を開き、弁護士が劇で自民党改憲案の危険性を告発しました。

劇は、9人の弁護士が、「朝までとつかテレビ 比べてみよういまけん（日本国憲法）とじみけん（自民党改憲草案）の社会」と題し、有名討論番組を模して激論をかわすというストーリーです。

安倍首相の「立法府の長」発言や高市総務相の放送局の停波発言なども取り上げ、改憲派役と護憲派役のやり取りを通して、政府や改憲派の主張のごまかし、自民党改憲案の危険性を浮き彫りにしていきました。

劇中で、護憲派役の弁護士が「一人ひとりの人間、個人を尊重する社会を実現でき

る今の憲法を支持する人は大きな拍手を」と会場に呼びかけると、参加者は大きな拍手で応じました。

妻に誘われて参加した相模原市の青木康さん（63）は「劇は、首相や総務相らの性格や本音を反映して、皮肉が利いていて面白かった。自民党憲法のおかしさを周りに知らせたい」と話しました。

県内の九条の会の活動を交流

【群馬県・九条の会群馬ネットワーク】

県内の九条の会73団体が加入している「九条の会」群馬ネットワークはこのほど、前橋市で講演会と活動交流会を開きました。弁護士で日弁連憲法問題対策本部副部長の伊藤真氏が「今こそ『憲法の力』をつけよう！一憲法改悪阻止のために」と題して講演しました。

伊藤氏は「個人として尊重されるために国家権力を制限し人権保障をはかる」ことが土台にあって、日本国憲法の基本原理があると解説。憲法の理想に現実を近づけるために「憲法を知り、主権者として主体的に行動しよう」と呼びかけました。

活動交流会では、5つの地域と職場の九条の会が報告。地域での9条署名行動のほか、平和だるまやシールなどの啓蒙グッズ製作、職場の若い職員によるヒップホップ音楽に字幕をつけた動画の作成、地域の文化祭での戦争遺跡や戦没者、軍馬の調査資料の発表など多彩な活動を紹介しました。

「押し付け憲法」論を批判

【新潟県見附市・見附9条の会】 10月29日、見附9条の会が五十嵐仁・法政大学

名誉言教授を迎えて10周年記念講演会を開き、140人が参加しました。

五十嵐氏は、「改憲の何が問題なのか—9条・暮らし・家族」と題し講演。参院選1人区で勝利した野党共闘の威力と、知事選勝利で示された市民と野党の協力こそ政治を変える力だと強調しました。

五十嵐氏は、自民党改憲案について、立憲主義の否定、国民主権の否定、基本的人権の否定など前近代的問題を指摘。憲法は「押し付け」られたものではなく、高野岩三郎や鈴木安蔵などの学者ら（憲法研究会）が憲法試案を作成し、それが源流になったと力説しました。

参加者から「非常に分かりやすく、大変元気が出た」「人に伝える場が増えていくと思う」などの感想がありました。

オープニングで、ポーカルグループ「メヂカラ」が歌いました。

広範な団体とピースアクション

【東京都足立区・千住九条の会】11月6日、千住九条の会が足立区内諸団体に呼びかけて準備をすすめてきた「憲法九条を私たちの手で守ろう！ピースアクションin足立」を100名の参加者で行いました。

まず北千住の公園に集合し、北千住駅までサウンドパレード。アコーディオン、ギターの伴奏で「戦争を知らない子どもたち」「戦争はもういやだ」などを歌いながら、コールやトランペット演奏も交えて街をパレードすると、沢山の人が注目し、立ち止まりスマホで撮影する人もいたり、アピール度が高かったです。

トランペット奏者がジブリの曲を演奏す

ると沢山の子どもたちが近寄ってきて「戦争いやだは、当たり前じゃん」とか「憲法改悪STOP」のプラカードを指さして「これはどういうこと？」と聞いてきました。

パレードのあとは、北千住駅前デッキで、リレートーク。北千住教会牧師の開会挨拶、民進党、共産党、緑の党などのスピーチ。安非法制に反対するママの会の代表は「大切な大切な、何十回いっても足りないくらい大切な我が子を戦場に送るわけにはいきません」とスピーチしました。

歌人も弾圧された歴史に学び

【神奈川県川崎市・万葉九条の会】「万葉九条の会」は10月26日、川崎市麻生区で「講演と音楽文化の会」を開きました。

同会は、「柿生会」という短歌会の有志で発足し、毎月の「便り」と年1回の文化的な催しで憲法九条の大切さを訴えています。

歌人で東京大学情報理工学教員の坂井修一氏が「歌人は『平和』を壊すものをどう感じとり、どう歌ってきたか」をテーマに講演しました。

坂井氏は、アララギ派歌人が大逆事件にほぼ無反応だったが、明星派は鋭く反応したことを紹介。両派の接近を試みた森鷗外が、軍医で歌人、文学者であったことで苦悩と限界から、ダブルスタンダードとならざるを得ず、彼の作品は暗く、閉塞感に満ちたものになったと解説しました。また、「科学者と平和」について、第2次世界大戦下のアインシュタインとフロイトの往復書簡などにふれ解明しました。

92歳の歌人、岩田正氏は自身の軍隊経験を語りました。